

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

教会と世界宣教

世界宣教師局長 梅田登志枝



「彼らが主を礼拝し断食していると、聖霊が『バルナバとサウロをわたしのために聖別して私が召した任務につかせなさい』と言われた。そこで彼らは断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した」（使徒の働き一三章2、3節）

この引用箇所にはアンテオケ教会による世界宣教の開始が記録されています。けれどもその教会の始まりは幾人かの小さな群れにしかすぎませんでした（使徒の働き一章20節）。

教会がギリシャ人などの異邦人世界を視野に入れないから伝道したことが、やがて世界宣教の拠点となる教会へと成長することになりました。そしてキリスト教世界の拡大に貢献したという意味で、最初の宣教師とも言えるパウロはバルナバとともに、この教会から派遣されたのです。

聖霊は教会にこの二人を聖別することと任務につかせることを命じました。（2節）そして教会が断食と祈りのうちに二人に手を置いて宣教旅行へと送り出しました。（3節）

ここに世界宣教と教会との関係性が明記されています。神様によって福音宣教に直接携わるよう召された人々は、教会がその人々を聖別し、任務に就かせ、教会が派遣するのです。

宣教の結実として誕生した教会が、また次の結実のために宣教するのです。この循環が日本や世界の各地で起こり、重なり合いながら、再び主のおいになる

その時まで、継続しつつ前進するのが教会の責務であると教えられます。神様によって建てられたすべての教会はこの世界宣教の循環の中に、いま存在しています。その意味では教会建設も世界宣教もゴールではなくプロセス（過程）なのです。

福音宣教の戦いは世の終わりまで続きます。けれども一方で、日本における帰国者、国際ファミリー、留学生、また外国人雇用者の増加は教会にとっては、国内で世界宣教に貢献できる好機でもあります。また、アジアやヨーロッパでの日本語への関心の高まりは海外での日本語集会への活路にもなり得ます。

このように「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を」伝える方策や手段は適切な時代分析の中で柔軟に変えていく必要があるのではないのでしょうか。また主イエス様が命じられた「地の果てまで」（使徒の働き一章8節）の概念は時代とともにますます変化し続けることでしょう。

けれどもアンテオケ教会がその小さな群れの時代から、外の世界のために祈り、献げ、人を送り出すことを意識したという、この世界宣教と教会の原理は今もこれからも変えてはならないことです。

今年19日は宣教聖日です。世界宣教師局から届けられる宣教ビデオをぜひご活用ください。各個教会が世界宣教のために、さらに祈り、人を送り出し、支え続ける宣教的教会を目指していただくことをお祈りいたします。

目次

- 教会と世界宣教……梅田登志枝……1
- アンケート集計報告、JHA 聖化大会……2
- 総会年会開催のご案内、代議員選挙公告……3
- 海外トピックス、国内局コラム、新改訳2017……4
- 東海宣教会議、教育局運営委員会、信徒スクーリング……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

第21次教団総会に向けて

組織検討タスクフォースから アンケートの集計報告 信徒局の創設へ

タスクフォース 河村従彦

イザールの位置づけ、Q5 厚生委員長を牧師だけでなく信徒も担える体制にすること、Q6 財務委員長を牧師だけでなく信徒も担える体制にすること、以上6点です。回答は統計処理を行い、全体として賛成傾向の結果を得ました。たとえば信徒局創設の結果は、図1のとおりです。

図2と3図は、厚生委員長と財務委員長を信徒が担える形にするかという問いの結果です。

6つの問いを総括すると、牧師よりも信徒が変化を求めており、厚生委員長の件は、60代以上よりも60代以前のほうが変化を求めていることも伺えました。

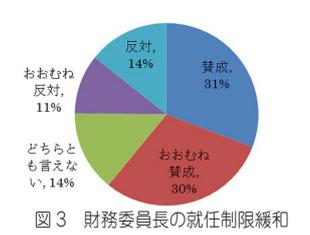
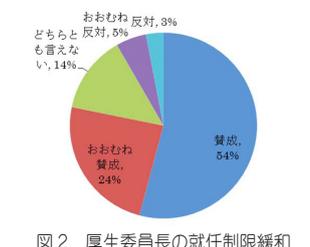
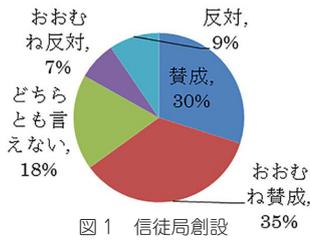
昨年からは始まった組織の見直しは、教団の委員会や本部の運営に關わって来られた信徒の方々からのご要望が後押しとなりました。牧師4名のチームが任命され(組織検討タスクフォース)、教団運営委員会へ素案を提出、年会後はさらに信徒委員2名を加えて作業を継続しました。

牧師と信徒総会代議員に2回のアンケートを実施しました。内容は、Q1 国内教会局と世界宣教局一元化、Q2 信徒局創設、Q3 青年局設置、Q4 ブロック・アドバ

宣教局一元化とブロック・アドバ イザールの件は検討委員会を設けて継続審議扱い、その他の点については次の項目に絞って総会に改正案が上程される見通しです。

(1) 信徒局を創設する。(2) 教育局内に青少年部を設置する。(3) 厚生委員長・財務委員長は信徒も任命できるように制限を緩和する。

総会に向けて皆さまの格段なるご理解、お祈りをお願い致します。



2017年JHA聖化大会報告

聖化の未来を見つめて 宗教改革500周年の聖会

王子教会 小林 佳

いつも聖化大会のために尊いお祈りをありがとうございます。

去る10月15日〜24日にかけて、関東、名古屋、大阪、岡山、九州の各地でダイアン・レクラーク博士(ノースウエスト・ナザレン大

学教授、2011年主講師として来日されたフロイド・カニングガム師の妹様)を主講師としてお迎えし、聖化大会が行われました。

第32回を迎える関東聖化大会では、まず十五日にインマヌエル高

津教会にて青年大会が行われました。東京フリー・メソジスト教団小井金教会の伊藤真人先生を講師にお迎えしましたが、「全き愛」をテーマにアメリカでのご自身のミニストリーの経験を踏まえながらきよめのメッセージを語ってください、120名を超える方々が集まりました。

また16、17日は会場をインマヌエル中目黒教会に移し、「聖化の未来を見つめて」宗教改革500年」というメインテーマのもと、

ダイアン・レクラーク先生によるセミナー、女性大会、聖会と、北海道聖化大会会長である高橋養二師による聖会、更に青年委員会によるグループディスカッションの時もたれました。聖会はどれも二百名ほどの方々が集まり、素晴らしい恵みのひと時となり、感謝でした。

レクラーク先生の専門は歴史神学ということもあり、セミナーでは「ウェスレー神学の先駆者たち：宗教改革」と題して、ウェスレーとルターの比較をしながらとてもわかりやすく講義を進めてくださいました。また女性大会、聖会でのメッセージも素晴らしく、伝統的に受け継がれてきた大切なホーリネスのメッセージを中核に据えながらも、現代の人々の心に届く深いメッセージを取り次いでくださいました。特に女性大会のメッセージでは多くの姉妹方がメッセージのCDを購入しておられた

のが印象的でした。

また日本人講師として聖会のご奉仕をしてくださった高橋養二師は、ご自身の経験談を交えながら聖化の恵みについて語ってくださいました。その中でもみことばにふれること、聖書を読み続けることの大切さを力強く語ってください、感謝でした。執筆されたばかりのご自身の証集も恵みの宝庫であり、多くの方々が手にしておられました。

さらに青年委員会のグループディスカッション「みことばに立つ聖化」では、旧約・新約の観点から日本ホーリネス教団の千代崎備道先生とウェスレアン・ホーリネス教団の山崎忍先生が発題してください、有意義な分かち合いの時もたれました。

来年度は日本各地の交友会で、日本人講師をお招きしての聖会がもたれます。引き続きお祈りのご支援をよろしくお願致します。



総務局からご案内……

明年2018年3月
第21次総会、全国大会、
第73次年会の開催
概要のお知らせ

総務局長 北田直人

会場・市川市文化会館
(J R御茶ノ水駅からJ R本八幡
駅まで23分。本八幡駅から会場ま
で徒歩10分)

合同礼拝 10時30分

説教Ⅱ新代表

*昼食

青年大会 14時

説教Ⅱ大嶋重徳師

▼合同礼拝に合流されるか、各教
会で礼拝を行った後、年會に出席
されるかは自由です。

*会場内、会場周辺には食事がで
きるところがありませんので、青
年大会にも出席される方は、J R
本八幡駅周辺で召し上がっていた
だくこととなります。

●第73次年会

会場・OCC8階チャペル

3月5日(月)

年會議事Ⅰ 11時～13時

*昼食

年會議事Ⅱ 14時30分～16時30分

引退女性牧師を送る会

*夕食

聖會Ⅰ 18時30分～20時

3月6日(火)

聖會Ⅱ 10時～11時

就職按手式・任命式

11時～12時

*昼食

年會終了後

教区主事會議 8階チャペル

転任事務 6階本部

*昼食・夕食は会場近辺で召し上
がっていただきます。

●全国大会 3月4日(日)

- ・第21次総会期方針提案
- ・新教団運営委員、常置委員会
委員長、責任役員発表
- ・人事委員会
- ・第20次総会期報告
- ・代表選挙、代表按手式
- ・局長等選考委員会

選挙管理委員会から

選挙公告

62名の代議員名簿

委員長 松井元始

◇総会代議員の選出

去る9月15日を締切にして、第
21次総会教職代議員選挙を行いま
した。投票資格を持つ全教役者
207名から196票が返送され、
9月22日の開票・集計作業を経て、
24名が確定しました。

信徒代議員については、全国15
教区がそれぞれの実情に応じた選
出方法により、計24名を選出しま
した。

◇代表候補者の選出(予備選挙)

次は、次期代表を選出するため
の予備選挙(代表候補者3名の選
出)を行います。この選挙の被選
挙者は、教職代議員と職責上の教
職代議員(現教団運営委員)の中
で年齢制限・任期制限に該当する
方(公告で*のついた4名)を除
く計32名の方々です。

10月31日に予備選挙の投票用紙
を発送し、投票締切は11月20日当
日消印有効)です。12月5日に開
票・集計作業を行い、候補者3名
を決定し、教報1月号の紙上で
その氏名を公表します。

この選挙はお互いに繁忙な時期
と重なりますので、早めの返送に

心がけてくださり、うっかり棄権
にならないようにと願います。

第21次総会代議員氏名公告

2018年3月3日～4日に開
催される第21次教団総会の代議員
として、以下の62名が選出されま
した。(敬称略)

■教職代議員(五十音順・24名)

朝比奈悦也(大阪伝法)

梅田 昇(中目黒)

大兼久芳規(京都伏見)

小川宣嗣(聖宣神学院)

*勝間田充夫(長岡)

神谷光一(秋田)

国重潔志(福岡)

阪下 謙(佐賀)

佐藤信行(船橋)

田辺岩雄(千葉)

田辺寿雄(王寺)

葛田聡毅(堺)

葛田順子(浜松)

葛田敬子(神栖)

寺村秀嗣(板橋)

*徳田文彦(別府)

南場良文(高田)

野田 禎(富士見台)

浜田耕三(島田)

平瀬義樹(台湾)

細田恒太郎(仙台)

松井元始(浦和)

*矢木良雄(桂町)

吉村和記(久留米)

▼職責上の教職代議員(12名)

*藤本 満(代表)

北田直人(総務局長)

内山 勝(国内教会局長)

梅田登志枝(世界宣教局長)

林 正弘(教育局長)

河村徒彦(聖宣神学院院长)

川嶋直行(北日本B A)

葛田崇志(関東南B A)

葛田直毅(中部B A)

田中 進(西日本B A)

岩上祝仁(南日本B A)

■ 睦子(女性牧師部部长)

以上、教職代議員 計36名

■信徒代議員(北から・24名)

村岡忠至(札幌)

村上敦郎(仙台)

櫻井和人(大宮)

松下泰子(市川)

猪狩友行(船橋)

池田光重(千葉)

越山信行(中目黒)

岩上義人(武蔵村山)

小野正三(立川)

玉木欽也(高津)

館野純生(聖宣神学院)

横山 望(静岡)

小久江昭(浜松)

岡安教了(四日市)

田井 豊(長岡)

坂岡隆司(京都伏見)

本田みどり(大阪伝法)

田中 望(神戸)

里村佳子(呉)

福岡義信(徳島)

林 弘毅(久留米)

糸永博文(別府)

林 美行(熊本)

山城 明(那覇)

▼職責上の信徒代議員(2名)

額田 昭(船橋)

馬場満子(中目黒)

以上、信徒代議員 計26名

国内教会局から

新約の諸教会再訪

主イエスの響きがする教会

今月は少し目線を変えて、とある教会を訪れます。主イエスの弟ヤコブが牧会した教会です。実はどこに建てられた教会なのか分かっていません。会衆はおもにユダヤ人クリスチャンで、パレスチナ地域から離れた



ところで信仰を守る聖徒たちだろうと言われています。手紙が朗読されると何やら格言的で少々厳しい表現が散りばめられているような印象を受けますが、ふと気づくのです。手紙の節々にナザレのイエスの響きがあるのです。山の上で語られたみことばの数々、宗教家と対峙された主の激しさ、

(葛田崇志)

■ロンドンに水上生活者のため「水に浮かぶ教会」
英国国教会(聖公会) ロンドン教区が、イーストロンドンの運河網を航行する教会型の船の建造を発注した。この「教会船」は、ロンドンの建築設計事務所『デニゼン・ワークス』が設計し、12月に完成の予定。完成すれば、『クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク』近くの運河網を航行する。ロンドン教区は今夏、計画について協議し、既に運河沿いの敷力所に停泊させる許可を当局に申請している。ステツプニー主教のエイドリアン・ニューマン氏は、「水上教会はロンドン教区が宣教活動を拡大し、さまざまな共同体を支援する道を示している」と言う。

■ニューヨーク市で2番目に古い教会を歴史的建造物指定
ニューヨーク市クイーンズ区エラムハーストにあるオールド・セント・ジェームス聖公会教会が9月19日、歴史的建造物に指定されたと、現地邦語紙『デイリー・サン』が伝えた。
米国が独立以前の1735年、36年にかけて英国国教会が建設。同区フラッシングにあるオールド・クエーカー・ミーティング・ハウス(1694年建造)に続き、市内では2番目に古い教会。
教会周辺はニュータウンと呼ばれていた地域で、英国からの入植者が多く住み、建設当時、入植者

の数は千人近かった。独立戦争時に英国軍が拠点にしたが、攻撃を免れたという。1999年には連邦政府から史跡として認証を受け、地域住民などが長年、市からの認定を求めている。
賀川豊彦と吉田茂が平和賞最終候補だったとノーベル研究所資料(貧困や労働問題に取り組んだ社会活動家の賀川豊彦(1888-1960年)が1954年から毎年のようにノーベル平和賞選考で最終候補に残っていたことが、ノルウェー・オスロのノーベル研究所が開示した資料で確認された。日本の戦後復興や民主化に貢献したとして吉田茂元首相(1878-1967年)も65年の選考で最終候補に残っていた。
賀川や吉田が平和賞候補として複数回推薦を受けていたことは既に明らかされていたが、日本人の平和賞受賞は74年の佐藤栄作元首相だけ。(平瀬聡樹)

また虐げられる人々に向けられる無尺蔵の慈しみ。
この教会の脇を通る人々はふと耳を傾けて、「この教会の中では、ナザレのイエスが今でも語っておられるのだろうか」と懐かしむのです。どこにある教会なのか今では分かりませんが、主イエスの声が響く会堂を訪れて見たいものです。



海外トピックス



「聖書 新改訳2017」刊行!

中型版聖書が手許に
47年目の大改訂です



教団代表 藤本 満

ファン드를提供してこの働きを支えてきました。
教団として、私たちがこの働きのために最大の貢献をなしたと言っても過言ではありません。

◆精一杯の制作努力
・字体について——出版社が4種類の字体を用意して、それを様々な年齢層、牧師や信徒の方々に読んでいただき、アンケートを採りました。結果、いちばん読みやすいとされたのは、少し縦長の字体で、行間ができるために読みやすく感じます。中型版でも、これまでもよりも一回り大きく感じます。

◆インマヌエルの貢献
新日本聖書刊行会の理事長は、発足当時から竿代照夫師、教会代表委員会の委員長は藤本が務め、翻訳のために南場良文師、葛田崇志師、岩上敬人師が労され、また教団として献金し、多数の教会が

◆正式採用を来年4月に
革装が出版されるのは3月です。それで、教団としては4月からの正式採用を決定しました。とはいえ、愛着あるこれまでの聖書から無理に引き離すことはできません。また重さを考えるとご高齢の方は、ご自宅用とは別に、ご自分の聖書の教会据え置きを求められることも理解できます。各教会の実情に合わせ、ご検討をお願いします。

◆紙質について——辞書が電子化され、薄紙を安定して供給できる会社が2社しかありません。最薄の紙を、裏移りがあるか水に強いか白かクリームかで、アンケートを採り、この紙を採用しました。
・製本について——分厚い本が、さらりと左右にわかれるように、それでいて壊れないように最善の方法を採りました。
・それでも以前のものより重いこととは事実です。

『聖書 新改訳2017』が刊行されました。1970年に聖書を神の言葉と信じる福音派が刊行した『新改訳聖書』が、大々的に改訂されました。翻訳陣と共に日本語の専門家の集団を設け、検討してきました。まさに二十一世紀を代表する日本の聖書となります。



◆正式採用を来年4月に
革装が出版されるのは3月です。それで、教団としては4月からの正式採用を決定しました。とはいえ、愛着あるこれまでの聖書から無理に引き離すことはできません。また重さを考えるとご高齢の方は、ご自宅用とは別に、ご自分の聖書の教会据え置きを求められることも理解できます。各教会の実情に合わせ、ご検討をお願いします。

東海宣教フォーラム

東海地域諸教団の
新たな協力の出発点

名古屋教会 内山 勝

師は、名古屋市にあるキリスト聖書学校(CBS)の創設者で、東海の福音宣教に情熱を注いで来られた器でもあります。グローバルな教界の動向とこれからの方向性を明示してくださいました。特に、自分にはなく、福音に自信を持つとうとの呼びかけに、大いに励まされました。

次世代の参加を促すために2日目の夜は、ミッシェン・ナイトが開催され、横山大輔氏らによるスペシャル・コンサート、3人の青年パネラーへの宣教についてのインタビュー、飯田岳師(東京フリー・メソジスト南大沢)による力強いメッセージ「主は青年を用いられる」が語られました。HIBA、KGG、CCCなどの青年伝道諸団体と2つの神学校の連携と協力が強い推進力となった大会でした。250名を上回る参加者があり感謝でした。

東海地域には、東海福音フェロシップ(TEF)という超教派の交わりがあります。同団体が大事にしてきたのは、活動を目的とせず、相互の交わりを中心とするということ、このゆるさの故に、長年継続することができたと思います。このTEFを母体として、有志により、東海聖書神学塾TEF地震対策委員会などの活動が行われていますが、数年に一度の割合で「東海宣教会議」も開催されてきました。今回は、9年振りの開催でした。

リーダー的な役割を果たしてきた牧師たちが、後進に委ねる形で世代交代がなされての開催で、若い世代によるフレッシュな取り組みが随所に見られました。



教育局運営委員会から

信徒局創設に向けて
組織改編の準備

教育局長 林 正弘

10月2日に今年二回目の教育局運営委員会が開かれました。

各部の活動と予定の報告、さら到来年度の予算案の作成がなされました。各部の活動、特に、例年のように聖会時を含む各地での部会や大会が企画・開催されたこと、また記念すべき第10回となったことにキヤンが祝福のうちに行われたことを感謝しました。

また、教団組織の検討が進められて、信徒局の創設を含む条例改訂案が来年の教団総会に提出されることを踏まえて、意見交換がなされました。信徒局に移行しないとしても、壮年部、女性部とも活動への信徒の主体的関わりが促進されることが必要であるとの認識を共有しました。それと同時に、組織上の位置が変わっても、壮年部と女性部は、当面これまでのあり方を維持しつつ、徐々に態勢を整えて行くこと、青年部と教会学校部は中高生キャンプ委員会を含め、これまで以上に連続性を意識し、連携して青少年育成にあたっていくことが確認されました。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

信徒伝道者スクーリング……

集中した学びの時
牧会の奉仕のために



富士見台教会 野田 禎

教育局信徒教育課の中に信徒伝道者養成コースがあります。幸いな奉仕者として神様、教会、人に仕える事を目標としています。

今回は、9月26日(火)から27日(水)神学院を会場にスクーリングが開かれました。全国から8名(女子2名、男子6名)の信徒伝道者と受講中の方々が参加し、熱意に取り組みました。

事前に、内山勝先生が昨年なさった「信徒伝道者の説教と資質」という講演ビデオを復習し、またかつて教育局で出していた信徒講座の「救いとほ」(熊谷邦男先生)のビデオも見て頂きました。また、「あなたにもできるあかし」(ロザリント・リンカー著)も読んで頂きました。

内山先生からは「霊的ケア」としてI、霊的ケアの多様性、アソシエ、アクラ・プリスキラ、ピリポ、バルナバ、II、霊的ケアの基本、が語られました。

河村從彦先生からは「みことば信徒の目線」としてお話を頂き、

その中で小グループに分かれて互いに意見を交換しました。

また二日目は内山師と林師の2クラスに別れ、説教発表と講評があり、質問、証しがありました。スクーリングの最後には、小川先生から、7人の執事の一人、ピリポを通して信徒伝道者としての幸いなお勧めがありました。

神学院の本館トイレ、男子寮が新しくなり、良き学び舎の環境も整えられていました。また、ボランティア・スタッフの方々が用意してくださったおいしいお食事も大変感謝でした。

信徒伝道者は当初説教のできる奉仕者養成に焦点を当ててきましたが、今牧会ができる信徒目線の牧会協力が求められています。

11月には信徒伝道者養成コースの案内が届きます。教団のホームページには、「信徒伝道者養成課程」応募要項がございます。



巻頭言

弱いからこそ



世界宣教局
薦田 敬子

「ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。……なぜなら、私が弱いときこそ、私は強いからです。」
(Ⅱコリント二二章9-10節)



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

宣教月間を迎えました。特に第三聖日を宣教聖日として覚えていきます。多くの教会が、世界宣教局作成のビデオを通して、各地の宣教地、宣教師の様子を知り、祈ってくださることに、とても大きな励ましをいただきます。宣教の働きをサポートしたいけれど、たくさんすることはできない、祈ることしかできない、……といったことを語ってくださる先生方もおられます。しかし、それは「しか」ではなく、そのような心をもって共に戦ってくださることこそが宣教の大きな力であることを思うのです。

私はこれを「私が弱くても大丈夫主がいてくださるから」と読んでいたように感じます。「主われを愛す、主は強ければ、われ弱くとも恐れはあらず」です。
しかしふと、「弱くても」ではなく「弱いからこそ」という世界もあるのではないかと、思ったのです。数十年前のことですが、アメリカで手術を受けることになった友人があります。手術の前に執刀医が病室を訪れて一緒に祈ってくれる、ということに、すばらしいなあ、羨ましいなあ、と感じたものです。日本でそれができる病院はいくつあるかしら、と。
強くなければ入れない、たとえば上位数人あるいは数チームだけが進める決勝の世界がスポーツにはあるでしょう。しかし同時に、同じ弱さを抱えているからこそ入って行って近づける、友達になれる、受け入れてもらえる世界もあります。そういう人にだけ開かれる門があります。
宣教ということを思うとき、私たちと同じ弱さをまもって人の間に降りてきてくださった御子と同じように、同じ弱さがあるからこそ用いられる、他の人には入っていけない分野というものがあり得ます。「弱さのうちに完全に現れる」主の恵みと力というものが、例外なくひとりひとりの神の子どもたちの置かれた立場や環境にあって輝きを放つことを通して、今日も神のみわざはそここでなされていることを感謝します。

フィリピンでは9月に入りますと、クリスマスまでのデコレーションがこちらで見られます。ショッピングモールではクリスマスソングが店内で流れる季節となります。先日、ロザリスの町から家までトライスクール(バイクタクシー)で移動しました。乗車した瞬間にドライバーが100ペソと交渉してきましたが、いつもは60ペソなので「60ナラン(60ペソだけだよ)」と言うと、「80ペソ」「70ペソ」と交渉され続け、最後にドライバーが言った一言が「クリスマスなんだからさあ」でした。まあ、その後は無視して、最後はしっかりと「60ペソ」払いました。クリスマスが祝われるその一方で、クリスマスが誤用(悪用?)される時期にも入っています。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2017年10月10日



告します。恭子の出産予定日は10月19日なのですが、我が家の子ども3人とも第36週に産まれたこともあり、今回も36週と高を括り、恭子が1人で病院へ診察に行ったところ、やはり子宮が2センチ開き始めていました。お医者さんは明日か、明後日にも産まれますねと仰ったので、恭子はマニラに他出していた常喜に連絡しました。常喜はマニラからバスで5時間掛けて、急いで帰ってきましたが、結局、その週は待って暮らせど子どもは産まれませんでした。翌々週には4センチ開き、妻が少し陣痛らしきものを感じるといので、マニラに他出していた常喜は急いで帰ってきましたが、結局その週も産まれませんでした。私たちにとっては第36週の早産が普通となっていたので少し拍子抜けしてしまってますが、きっと外界の子ども3人のあまりの賑やかさにお腹の赤ちゃんが引いてしまい生まれるタイミングを引き延ばしているのだらうと2人で話しています。来月には出産の報告ができることでしょう。(写真はモールのクリスマスデコレーションです。)



CHINA

香港

鹿島義喜・朱蕙芬*2017年10月5日

今年の香港は、台風の当たり年のような感じでした。7月23日の日曜日には、香港イムヌエル教会が開拓してから9年目に入っています。礼拝を集って捧げることができないという初めての経験でした。8月も台風がこちらの方へ来、8月23日の水曜日には、香港での台風警報シグナル10という最高レベルまで上がりました。その後、すぐにまた次の台風が来て、8月27日の日曜日、それも礼拝の時間に警報シグナル8が出されました。シグナル8以上が出されるとほとんどの交通が止まり、礼拝は各自で捧げることとなります。そのような今年の夏の営みでしたが、幸いに日本からの家族の訪問もありました。また7月31日には礼拝の中で転籍を伴う入会式を持つことが許されました(写真)。今年の旧正月から毎週休むことなく礼拝に来られている兄弟でした。9年間礼拝から遠ざかっておられましたが、息子さんが現地の

英語国際教会で変えられ、もう一度信仰が回復されておられます。この教会がそのような受け皿として用いられたことは感謝でした。しかし、そのような中、8年間一緒に教会形成に励んでくれた兄弟を仕事の関係で日本の浜松に送ることとなりました。奥様が韓国の方で、香港の韓国語教会で救われ受洗をされておられました。言葉のハンデもあり、日本語での礼拝をということで香港イムヌエル教会に来られておられました。浜松にはイムヌエル教会があるので、ご本人も同じ流れの中で信仰生活を続けたいと願われておられます。



今年の11月19日の宣教聖日には、世界宣教局長にご訪問いただき、礼拝でみ言葉を取り次いでいただくとともに近隣も見ていただくことになっています。教会にとりまして良い時となりますようにお祈りいただけると感謝です。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2017年10月5日

9月に入り、ザンビアはいよいよ夏に入りました。朝晩は少しまだ冷えますが、日中は日差しが強くなり日々となりました。9月はお産で忙しい日々から始まりました。そのような中でも事故なく守られたことは感謝です。第3週は外出の多い週でした。お祈りいただいていた宣教車が与えられ、11日に銀行のある85キロ先の町に行き、送金しました。2日後には、以前のジンバに急遽行く用事があり、車で出かけました。日本から送っていただいた古着がジンバに届けられていたため、それを取りに行ったのと、送金したはずのお金が入っていないという連絡があったので、その事のフォローアップをしに銀行のある町に行きました。移動は事故なく守られ、送金の確認のフォローアップも行うことができました。土曜日には銀行関係、他用で首都ルサカに出ました。1日での行き来でしたが、事故なく守られました。その2日

後、急遽また銀行に行くこととなりました。未だに入金確認ができていないためでした。このプロセスを助けてくれる方と確認しに銀行に行きました。そこでやっと確認が取れ、その翌日に入金が確認されました。早ければ2〜3週間後には納車になります。今回の宣教車購入にあたり、この宣教車が教会の働きのために用いられるものとして免税が認められると理解し、話を進めてきました。しかし27日に、教会用の車として免税になる車の規格が変わり、今回購入したものが規格外になると伝えられました。知り合いが交通省に交渉をしていますが、まだどうなるかわかりません。どうぞお祈りに覚えてください。15日には宣教師館に正式な電線が繋がられました。この電気配線が成し遂げられたことは奇跡のような出来事で、本当に感謝しています。電気メーターをつければ電気システムは完成したといえますが、中々進まないのが現状です。宣教師館が完成するまでもう少しです。この少しがなかなか進まず、立ち往生しています。

21日には7月に事故に遭い、骨折したクリニックスタッフの病院再診の日だったので、迎えに行く援助をさせてもらいました。腰椎のダメージもあり腰痛持ちの彼にとって田舎から街に公共交通機関で行き来することはかなり負担となっております。徐々に回復に向かっており御名を崇めています。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2017年10月10日

ザンビアより21日に帰国して、22日に本部と世界宣教局にご挨拶とともに、宣教ビデオ作りのためにビデオを撮って頂きました。それから、この時期にザンビアから医学生との交換留学生として4週間の研修に来ている友人に会うために名古屋に行ってきました。ザンビアの主食シマ(トウモロコシの粉)が恋しいというのでちょうど持って帰ってきていたものをお裾分けしました。研修が忙しくどこへも出かけることはできないようでしたが、日本の印象はとも良く喜んで研修に励んでいてうれしく思いました。私は巡回を始める前、ビデオ作成の準備をしますが、自分では編集ができません。今回も助け手が与えられ感謝です。9月20日から巡回が始まっています。日頃ご支援頂いている皆様、直接お会いできることは、うれしく感謝でいっぱいです。背後の祈りなしにはやっていけないことを今まで以上に感じております。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2017年10月10日

「そこから船でアンテオケに帰った。そこは、彼らがいま成し遂げた働きのために、以前神の恵みにゆだねられて送り出されたところであった。」(使徒一四・26)

9月に入り、例年なら、少し気温が下がり、すぐに気温が上がる「秋の虎」(偏西風の下降現象に伴う気候変動)の季節なのですが、今年は、気温が下がらずに高いままで、最高気温が35度を越える日が続いています。

そのような中、我が家は台湾に再赴任し、通常の営みに戻りつつあります。早1か月が過ぎ、その間に光世が風邪を引き、少し休養しました。そのほか、大きく体調を崩すことなく守られています。子どもたちも支えられ、中学2年の第二学期、高校2年の第一学期をそれぞれに迎え、今月は中間テストや第一回の定期テストに臨んでいます。

今年の暦は、台湾では9月、10月に、中秋節や国慶節の祝日があ

り、大型連休が続きます。その連休を利用する形で、台湾から日本への出張や一時帰国、日本やアメリカなどから台湾への旅行や一時帰国などで、往来するケースが多くなりました。

台湾のY兄弟は、台湾、中国、日本と一週間の間に慌しく飛び回り、K姉妹は、台湾国内を東に西に、北に南にと忙しく動き回られ、集會出席のままならない、信仰の戦いの中にあります。I兄弟は、急遽インドに異動されることとなりました。そのような中、半年ぶり、1年ぶりに、かつて台中教会で共に礼拝を守った兄弟方が入れ替わりの形で、礼拝に集われました。久しぶりの再会とともに、日本での信仰生活、祝された教会生活を送っている兄弟の生き生きとした証し、仕事や健康の都合で集會出席が許されない中、奮闘中の兄弟の真実な証しと援禱の訴えを聞き、多くの恵みと語りかけを受けました。かつて主の恵みにゆだねて送り出した主に在る兄弟姉妹との交わりと語らひは、送り出す者にとっても、送り出される者にとっても、戻って来た人にとっても、祈り支えていた人にとっても、双方にとって大きな恵みであり、今後の交わりをさらに深める上で大切な近況と祈りの課題の交換の時となります。兄弟姉妹の姿がそこにありました。

アメリカから戻って来た兄弟は、私たちが最初に出会ったときには、高校生でしたが、家族が与えられ、



3人の子どもの父になっていました。

台南日本語集會でも、夏の間、複数の愛兄弟姉妹が体調を崩され、ある方は入院、手術を受け、ある方は入院中に別の箇所の異常がわかり、緊急手術を受け、またある方は、転倒し腕を複雑骨折され、手術を受けられました。1か月が経過し、体調が回復し、傷口が治り、快復され、集會に励んで、恵みの証しをしてくださいました。なお、この月も愛兄弟姉妹の海をまたいでの出張や一時帰国などの往来が続きます。

私たちが台南から台中に戻る途中で、宣教車のバッテリーランプが急点灯し、心配しましたが、安全確認をし、速度を落として何とか台中にたどり着きました。すぐに検査、修理を依頼しましたが、いろんな箇所に不具合が生じつつあります。すべてのみ守りを心より感謝しています。

- 会計報告9月分
 宣教献金 一、六六三、二一〇円
 月平均 一、九七〇、〇五三元
- お祈りの課題
- ◆カンボジア(鳥田緑乃)
 11月21日〜12月21日まで宣教旅行に出かけます。全スケジュールに御心が果たせまますようにお祈りください。
 - ◆グレッグ宣教師、ヴァンディ先生の子どもさん方の教育のために主の助けを必要としておられます。経済的側面、精神的側面(発達障害)のため
 - ◆本部や宣教師館の建設が迅速に、且つ正直に進められ、献堂式を無事に迎えられるように(予定では来年の12月〜6月)
 - ◆ザンビア(富澤)
 - ◆巡回の祝福
 - ◆日本の寒さに耐えられるように
 - ◆ザンビア(根廻)
 - ◆心身の健康が守られるように
 - ◆宣教車の購入の手續きが正しい方法で進まれるように
 - ◆ジエンボでの生活が守られるように
- 香港(鹿島)
- ◆9年目の歩みの中、一人ひとりにみこばによる霊的成長が与えられ、また新来会者が増えられてくるように
 - ◆牧師夫妻の健康が守られ、香港と広州を往復する生活が支えられるように
 - ◆2年目に入った広州での働きの

- ◆ため
- ◆日中関係が良好に保たれるように
- ◆台湾(平瀬)
- ◆中秋節、国慶節の大型連休が明け、通常の営みに戻る台湾社会と教会の歩みのため
- ◆教会の諸集會の足並みが揃うように。特に健康不安や重なる国内外出張で戦う愛兄弟姉妹のため
- ◆私たちが家族の健康と生活がすべての事故やトラブルなどから守られるように
- ◆台湾を取り巻く複雑な国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定を見るように
- ◆ケニア(鳥田就子)
- ◆M牧師のご家族や関係者の方々に上よりの慰めと助けがあるように
- ◆10月26日再選予定の大統領選挙及び関連の活動が平穩のうちに終わるように
- ◆フィリピン(豊田)
- ◆新校長アレックス先生のリーダーシップのため
- ◆神学教育の働きのため。今学期は常喜がウエスレー神学、ダニエル書・黙示録を教えています
- ◆恭子師出産のため
- ◆東京国際教会(鳥田康毅・由理)
- ◆8年間の東京国際基督教教会における華人宣教が守られた感謝
- ◆今後の東京国際基督教教会の歩みの祝福、特に日本語関係の働きが正しく導かれるように
- ◆巡回のために、霊肉や生活が整えられるように

聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

牧師人生の根拠は自分がない

院長 ● 河村 従彦

「あなたは、伝道者として働き、私は、走るとき道を走り終え」
(第二テモテ四・5、7)

パウロは若いテモテに「伝道者として頑張れよ」と励まし、続いて自分の生涯を総括します。「私は、走るとき道を走り終え」。アレツと思いました。「伝道者として走るとき道を」とは書かれていません。もちろん文脈から見ると、そうだろうとは思いますが、

はつきりしていることはありません。パウロが伝道者になった根拠はパウロの側になかった(使徒二六・16)、「やってほしい」と言

われたからやっているということ。そうならば、「その方」が「いよ」と言われたら、牧師を続ける根拠はなくなりません。腰掛けでやっているのではありません。牧師の生涯を貫くのはもちろん辛いことです。しかしそれも恵みであって、神さまに対して終身雇用を主張できるような雰囲気はなかなか少し変かな。このような思いがどこかにありました。

神さまの導きを信じて牧師の道に進んだのは不思議です。イエスキリストを知らなかった、使命感もなかった、果てしなく自惚れていた。逆に、牧師子弟だったことが妨げ

になりました。門前の小僧で知ったことがこの世界では通用しないばかりか、人を傷つける可能性があることにあるとき気づきました。裸の自分になって、神さまの前に「ただひとり責任をもって立つ自己」、これがどうやら牧師アイデンティティーの根拠にありそう。失敗を重ねてだんだんそう思うようになりまし。そういう私を神さまは大きな歯車の中で導いてくださる。パウロが「走り終え」と言ったのは、伝道者生涯を貫いたという意味よりは、失敗が多かったにもかかわらず、イエスキリストを裏切らなかつた、そういう心情が暗に表現されていると思うのです。ことばで言うところ陳腐になりますが、この世界は神さまの導きしかないのだな、と思います。頑張りではない、恵みの世界はそういう世界だと思えます。



第一期工事献別の祈り 本館トイレの前で

神学的研究や思索を発表することはできませんので、神学院の教理のクラスで、神の基本的な性質に関する学びをする際に、テキスト(トローレー著「聖書の教」、ワイレー著「キリスト教神学概論」)にまとめられている項目に関連づけて、学生の皆さんと意見交換をする材料(教理用語)についてご紹介してみます。

トローレーは、有限な被造物である私たちと創造者なる神とを区別する絶対的屬性の一つとして、『遍在』という性質を上げます。聖書の教える神は、時間や空間の制約を受けることなく、いつでもどこにでもおられるお方です(詩篇一三九篇やエレミヤ二三・24など)。どれほど宇宙が広大でも、被造物としての全宇宙が無限の神を閉じこめてしまうことはできません(超越性)、また神は全ての瞬間にその世界のどこにでもおられる方です(内在性)。使徒パウロは、アテネの人々を前に、「私たちは、神の中に行き、動き、存

在している」(使徒一七・28)と語り、神があらゆる時にあらゆる場所におられ、全ての事を見聞きしご存知であられることを教えました。この教理を勿論知っている説教者自身が本気で信じているかどうか、そしてそれを恐れではなく慰めと希望の語りかけとして提示できるかが問われます。

また、礼拝の祝福を祈る際によく用いられる『臨在』という用語があります。礼拝の中心に満ちあふれることを期待される神の栄光とは、「目に見えない神の輝かしい臨在」のことでしょう。聖書を見ると、神はイスラエルの民の歴史において、或いは特定の場所(聖なる山や天幕や神殿など)、特定の人物(アブラハムやモーゼなど)、特定の状況(礼拝や戦いの場)に対して、共におられることによる臨在を示され、その場所や人や状況を栄光で輝かされました。何よりも「イムヌエル」神は私たちと共におられる」というお名前と実質を持つ御子が人の子となつて地上に来てくださり、神の栄光と臨在が、信じる一人一人の内に実現し満ちあふれる道が開かれました。主の十字架と復活を経て、ペンテコステの出来事を通して約束の聖霊なる神が信じる人に宿り、私たち自身の身体を聖霊の宮、主イエスが内住される臨在の場としてくださいました。

こうした教理用語が示す恵みと祝福を、体験的に伝える者とならせていただきたいと思います。

神学エッセー

神学の用語について① 「神の『遍在』『内在』『臨在』」



小川宣嗣

◆後期の学びが始まって

伊藤家に生まれたかった

聴講生 伊藤安司

「後期の学びの前に」というテーマで執筆依頼を受けましたが、意気込みを書く前にうれしい出来事があったので少し紹介します。我が家には1年半暮らしている思春期の娘がいます。

極度の人見知り、家に来る訪問者に挨拶ができません。また人が傷ついてしまう言葉はポンと言ってしまうが、うれしい気持ちにはなかなか素直に表出することができません。アニメが大好き、声優が大好き。料理を頼むとハンバーグを作ってくれる女子力の高い娘です。

そんな娘が我が家に来た最初の1か月間、いろいろな事がありました。妻と泣く日もありました。しかし、泣きながらも足踏みを揃え、家族みんなで歩み続けることで、タイトルの言葉を娘が言ってくれたのです。

娘と2人でリビングにいた時、里親のアンケートがきたので、娘に聞きました。「血が繋がりはなくても家族が成り立つか？」娘は「えっ当たり前でしょう？」と即答しました。私は嬉しくなりさら

に尋ねました「我が家はどう？」

「伊藤家は楽しいね。伊藤家に生まれたかったって思うよ。この家に生まれていれば、何か変わったのかもしれない。」私は喜びました。我が家での暮らしが娘の人生にとって肯定したい人生となり、自分の人生と向き合う最初のステップを踏み出した様に感じたからです。今後、娘が神様と出会い、愛のうちに自分の人生を振り返り、痛み合う共感力を持ち、癒し合える子へ、自分らしく生きる神の子へと成長することを祈っています。

さて、本題に戻りますが、この後期で一度学びに区切りをつけます。大宮教会でインターンをさせて頂きました。大宮教会で感じた温かさ。この温かさが全教会にあり、そんな温もりの中でBTCが祈られ、支えられていることを感じるひと時となりました。皆さまの支えに感謝しつつ、恵みの伝承者としての基礎を築いていきたいと思えます。

●後期の学びが始まって

神さまにはできる！

正規コース 大谷のぞみ

「それは人にはできないことです。しかし、神は違います。神にはどんなことでもできるのです」



メンテナンス委員会 キャンパスの土地の現地確認をしました

(マルコ一〇・26)

いつも、尊いお祈りとサポートをいただいておりますことを感謝申し上げます。夏期実習のためにもお祈りいただき、ありがとうございます。

今年は、2年ぶりに「とにキャン」のご奉仕が許され、中学三年生のグループリーダーをやらせていただきました。受け持つ子どもたちに、誠実を持って仕えることが出来るように祈って備えておりました。結果、失敗だらけで、結局は「自分ファースト」である自分に気が付かされました。理想的なグループリーダー像を膨らませていきましたが、自分には理想的なリーダーになることは出来ないことを痛感し、それでも、神様は私と一緒に働いて下さることに本気であると語って下さいました。冒頭の聖句は、九州聖会で開かれ

たみことばです。理想をイメージし、できない自分を見せつけられ落ち込む自分を神様に委ね、自分ではできないことを認めることから神様の業が始まることを教えられました。

あと半年で机上での学びを終え、インターン生として、実際に現場に遣わされて行きます。遣わされることに現実味が増し、正直なところ、このままでは遣わされることはできないと、焦りが出てきました。不安になります。しかし、そんな不安や焦りを捨てない(委ねない)限り、従うことはできません。「神には何でもできる。」との約束に立って、残りの神学院の学びに励ませていただきたいと願っております。

●夏期実習を振り返って

全的信頼を学ぶ時

短期コース 高木暁子

「どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。アーメン。」(エペソ三・20-21)

8週間の夏期実習を終えて帰院

された神学生の表情は、皆、「主に生かされている」喜びに溢れていて、生き生きとされていました。静寂で、虫の音が響き渡るようなキャンパスに活気が戻ってききました。この教報を手にして頂く頃には、オープンキャンパスも終え後期の学びにしっかりと集中している頃かと思われまます。

私にとりましては前期実習の中では、子ども頃のよりお世話になった国光幾代子先生を天にお送りする教会の心温まるご葬儀のお手伝いに加えて頂いた恵みを、心より感謝する次第です。また、後期実習では、14日間も船橋教会との往復を守られて主にある多くの交わりをたくさん頂き、皆様が生き生きとご奉仕されている姿に感動して帰ってまいりました。

冒頭の聖言のように、「私たちのうちに働く力によって」とあるように、聖霊の働きを信じて、聖霊の豊かな導きに任せて、神さまへの全的信頼をもって、進んでいく後期でありたいと願っております。それは取りも直さず、後期どころか、生涯をかけてそのように歩むことができたらどんなに幸いです。

最後の後期を迎えて、まだまだ学びの足りなさを痛感せざるを得ません。「神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。」(ローマ四・21) 今後とも後期の学びの充実と、良き備えが与えられますようお願いに覚えて頂けたら幸いです。



男子寮一階 カーテンで仕切って居室に



男子寮一階 柱を立てて壁を作る



男子寮一階 このような個室に



本館トイレ 排水設備が設置された



本館トイレ 壁を立ててスペースを区切る



本館トイレ 新しいトイレに

沼津での日々も来春で二十五年となります。主イエスにあって一人ひとりの素敵な出会いを感謝します。そして、これからの出会いもまた楽しみです。

と語りかけられました。沼津での日々も来春で二十五年となります。主イエスにあって一人ひとりの素敵な出会いを感謝します。そして、これからの出会いもまた楽しみです。

それは、手放すということなのです。子育てを手放し、仕事を手放し、健康を手放して、最後にいのちも手放すのです。誰だって手放すのは嫌なものです。でも私たちクリスチャンは、手放すことは主イエスさまに委ねることだと知っています。本当に感謝ですね。」

また、今年二百三歳になった方(今も真実に礼拝へ出席されています)からはあるとき、「先生、年齢を取るこの意味がわかりますか。それは、手放すということなのです。子育てを手放し、仕事を手放し、健康を手放して、最後にいのちも手放すのです。誰だって手放すのは嫌なものです。でも私たちクリスチャンは、手放すことは主イエスさまに委ねることだと知っています。本当に感謝ですね。」

同窓生の近況

40期生

沼津シオン・キリスト教会 ● 荻野倍弘 ますひろ



サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。9月の会計報告をさせていただきます。

9月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥778,225
教会団体による「神学院献金」
¥461,525
合計 ¥1,239,750
その他の献金(一時・特別)
¥1,718,790

・振替：00230-0-10138

「教会学校」誌の編集は当時の教団幹部の先生方が毎月集まって委員会が開かれ、内容や執筆者が検討された。そんな中に神学生の分際で同席させられ、本筋以外のいろいろなことを学ばされた。決定した内容は、原稿依頼から現品納品までのすべてを委ねられた。こうして卒業後も引続き携わり、一九六六年十二月号まで十三年半にわたった。

三年生になった一九五四年に葛田二雄院長からまた呼ばれた。これまで手書き謄写版の小冊子で頒布されていた、丸の内聖別会説教を一年分ずつ単行本として刊行するので、着手するようにとのこと。早速、出版の仕事のノウハウを求めながら、印刷所の選定から始めなければならなかった。

神学院スタッフ…恵みの想起

編集・印刷の奉仕②

図書館 三森春生

● 後援会からのお願い 各教会の世話人のご推薦をお願い致します。お問い合わせは中山会長まで。

● 神学院祈り会は7日(火)です。

● 10月は、集中講義「イエスさまのたとえ話」と「キリスト教教育」の2科目の学び、次の週は関東聖化大会に参加、その週末はオープン・キャンパスが行われ、賑やかな月になりました。

● 次は12月28日(木)〜30日(土)のBTCリトリートで、皆さまをお待ちしています。

● 10月24日(火)から後期の授業が始まっています。学びの秋です。

● 「後援会たより」第2号が発行されました。礼拝ご出席の皆さまにお受け取りいただける部数をお送りしています。食堂ボランティア・スタッフ特集、世話人(関東から東)ご紹介特集が組まれています。関東から西の世話人のご紹介は次号になります。

学苑だより



公報

本部通達

「義を追い求める者、主を尋ね求める者よ。わたしに聞け。あなたがたの切り出された岩、掘り出された穴を見よ。」

(イザヤ五十一章)

先月は当教団の教団創立記念日があり、プロテスタント教会の宗教改革五百周年記念日があり、私たちの信仰のルーツを改めて確認し、深める良き機会となりました。今年も残す所ふた月となりましたが、今月の宣教聖日をはじめ、クリスマス・年末をも視野に入れた各教会の活動に、主の恵みが豊かに注がれますように。

■本部

(会議)

6日(月)～7日(火)

神学委・神学部会

13日(月)～14日(火)

教団運営委員会

(財務委員会予算書検討・

予算書承認・責任役員会)

28日(火) 人権委員会

【お願い】

▽10月21日の教団創立記念日を覚えて、各教会においてその前後に創立記念礼拝を守り、また創立記念感謝献金を実施していただいたことと存じますが、感謝献金の本部への送金をよろしくお願いいたします。

【選挙管理委員会より】

今月20日(月)は、代表予備選挙の投票締め切り日です。当日消印有効ですが、郵送による投票ですので、お忘れなく、お早めにお送りください。

■国内教会局

(会議)

14日(火)

国内教会局・運営委員会

(教区会)

1日(水) 沖縄教区会

(11月に行なわれる聖会)

◇沖縄聖会

2日(木)～3日(金・祝)

講師・岩上祝仁師

会場・聖クララ修道院

◇静岡聖会

3日(金・祝)

講師・鎌野善三師

会場・沼津プラザヴェルデ

(教区関連)

3日(金) 近畿教区壮年部大会

23日(金) 九州女性大会

27日(月)～28日(火)

南九州教区有志牧師

一泊祈祷会

27日(月) 中京教区報告会

■世界宣教局

(お願い)

▽今年も宣教聖日(19日)に向けて宣教ビデオが随時、各教会に届けられます。礼拝、祈祷会、その他の集会でぜひご利用いただき、世界宣教への理解を深めていただければ幸いです。

▽ザンビア(富澤香宣教師・根廻恵子宣教師)で購入した車は、現在輸送中ですが、税金などの諸手

続きが順調に、また間違いなく進みますようにお祈りください。

▽フィリピンの豊田常喜、恭子宣教師のご家庭に10月12日第四子、ご次男が無事誕生されました。お名前前は「義実(いさみ)くん」です。祝福をお祈りしましょう。

▽葛田緑乃宣教師は21日(火)から1か月ほど、カンボジアでの短期奉仕をします。ご健康が守られ、使命が果たせますようにお祈りしましょう。

▽梅田登志枝局長は18日(土)より香港イムヌエル教会(鹿島義喜、理香宣教師)を訪問し、礼拝奉仕などにあたります。今後の深圳、広州での伝道にも主の祝福をお祈りください。

(IWF関係)

▽IWF理事会在14日(火)本部で、海外からのお客様も迎えて開催されます。

▽関東在住の宣教師たちは10月15日から持たれた関東聖化大会にも参加されました。

(SIBS)

▽國重潔志師は11月10日～12月13日の予定でインドのSIBSを訪問されます。理事会、また80周年大会に出席し、その後、3週間にわたってキリスト教思想史のクラスを担当なさいます。ご健康が守られその責任が果たせますようにお祈りください。

■聖宣神学院

▽10月29日(日)から教会実習は後期に入りました。受け入れ教会に感謝致します。

▽秋の教師会

11月16日(木) 正午から。

▽BTCリトリート・冬の聖会

12月28日(木) 夜～30日(土)

午前、神学院を会場に行います。

聖会の講師は、沼津シオン・キリスト教会の荻野倍弘先生です。聖会は一般公開。ご参加をお待ちしています。

▽信徒土曜講座の「続・聖書読解法」は12月2日開講です。これからでも申込が可能です。

▽後援会からのご案内 「後援会

たより」第2号が発行になりました。礼拝にご出席の皆さまにお送りしています。どなたもお受け取りください。

■出版事業部

▽『聖書 新改訳2017』中型版が先月発送されました。12月初めに出版社への支払いがありますので、到着分の書籍代の送金にご協力ください(本部費送金に加えていただければ感謝です)。

▽『キリスト者の完全』(再刷)、

『岩から出る蜜』(再版)が発行されます。ぜひご利用ください。このあと『信仰教理問答』、聖書通読の手引き『わが道の光』(新刊)が順次発行されます。

消息報告



▽闘病中の長谷美代子師(安食教会)、江藤博久師(退任)のため引き続きお祈りください。

▽山形教会(釣俊栄師)では、来月には会堂を使用開始できるよう工事が進められています。降雪期を前に、工事が完了するようお祈りください。

▽23日(金・祝)、第3回カナ・フェローシップが基督兄弟団の小平牧生・恵先生ご夫妻を講師にお迎えして神戸教会で行われます。主に喜ばれる結婚を目指す学びと交わりが祝されますようお祈りください。

●第21次総会・全国大会・第73次年会日程

総会 3月3日(土)

会場 OCC8階チャペル

全国大会 3月4日(日)

会場 市川市文化会館

年会 3月5日(月)～6日(火)

会場 OCC8階チャペル

*詳細は教報今月号3ページをご覧ください。(写真は市川市文化会館)



教報PDFパスワード 3124